

## 第1回 南砺市男女共同参画推進審議会 議事要旨

■日 時：平成28年8月26日（金）19:10～21:10

■場 所：南砺市協働のまちづくり支援センター横 大会議室

■出席者：

〔委員〕

磯辺 文雄、大坪 久美子、沖田 功、斉藤 愛生、武田 和一、中島 幸子、中筋 愛子、松井 春美（副会長）、森田 利一

※出席者：五十音順、敬称略

〔事務局〕

南砺で暮らしません課 課長 市川 孝弘、協働のまちづくり係長 石本 裕、  
副主幹 石崎 裕子  
㈱東洋設計 都市空間情報部 南 雅

■傍 聴：なし

■議 事：

1. 開会
2. 委嘱書交付
3. 委員自己紹介
4. 事務局紹介
5. 南砺市男女共同参画推進審議会について
6. 副会長挨拶
7. 付議事項



- (1) 市民意識調査結果の報告
- (2) 計画策定スケジュール（案） →承認
- (3) 1次プランの施策評価



8. 意見交換
9. その他

- ・南砺市地域づくりフォーラム（平成28年9月19日）を案内。
- ・次回は、9月9日（金）19:00、本会場で開催。グループワークで施策体系について意見交換を行う。

10. 閉会



■意見交換（要旨）

副会長 本日は、会長が体調不良で欠席の為、副会長である私が議事進行を務めさせていただきます。では、事務局から説明をいただいた内容を踏まえ、委員の皆さんのご意見をお聞かせください。

- 委員 私は、男女平等参画を何のために行うかに関心がありました。みんなが幸せになるように、法律や制度、市長の発言の中にも経済活発化において女性力が必要という視点に主眼が置かれているように感じられる。本計画の策定を通じて、ゆっくりと検討してみたい。
- 委員 1次プラン・施策体系 評価表のうち、例えば、DVなどに関する認知度が73.7%とありますが、言葉としての認知度はある程度はみられても、具体的に相談できる体制は十分でないようにも思われ、計画を踏まえた施策の推進が重要であると認識しています。
- そのためには、基本的な対策と目標を設定し、PDCAを廻すことが重要となります。特に、福祉部局等との連携など、施策によっては関係部局や団体等との連携を図ることが重要になると思います。
- 県も県下全市町で男女共同参画計画を策定するようであり、せっかくですので、南砺市の計画が前に進められればと考えています。
- 市民意識調査の結果をみても、男女共同参画について半数以上の市民が肯定的な意見を持っているようですが、アンケート調査の回答者は男性中心であることもあり、女性に関わる機会づくりについても時代に合わせた施策を検討する必要があると感じた次第です。
- 委員 4月に自治会で男女共同参画をテーマに協議したことがありますが、男女共同参画というテーマ自体がわかりにくく、会議に参加する人たちの議論を進めるためのモチベーションを高めることにも苦労した記憶があります。
- この審議会においても、市民等に対してきっちりと訴えられるテーマと施策内容、達成目標を設定できるかが重要であると認識しています。
- 委員 南砺市らしい、男女共同参画計画を検討することは非常に難しいと思いました。高齢化率の高さに対する方策の検討は一つの視点かと思いますが、次のグループワークでの議論が重要であり、グループのメンバーは決まっているのでしょうか。
- 事務局 現時点では、ワーキンググループのメンバーは決まっていません。1次プランの施策を個々に検討し、白黒の評価をつける必要はなく、次の10年を見据えたプランとして、みなさんの意見を伺いたいと考えています。
- 委員 私は、町内会のお世話をしていますが、一般的に男女共同参画に関する認知度はさほど高いとは感じられず、町内会の女性役員登用についても、2～4年交代での世襲が続いているように思います。
- 但し、男女共同参画による地域づくりについて、市民が目を向けるべき時期にあることもある中、行政指導的な施策推進には限界もあると思われ、かといって市民中心に進めるには、市民意識等を含め熟度が足りないようでもあります。いずれにせよ、委員として計画策定に協力させていただきたいと

思います。

委員 男女共同参画とは何かについて説明することは難しいことです。私どもでは以前、男女共同参画カルタを福光で作ったことがあります。こうしたわかりやすい道具を市民に配布することで意識啓発を図ってきましたが、なかなか、理解を広げることは難しいと実感している所です。とにかく、平たく、市民に訴えられることが重要と考えています。

なお、市民意識調査の調査票回収率が平成 17 年時点が 46.4%であったが、平成 27 年時点では 100%となっているが、こんなに高い回収率であったのでしょうか。

事務局 調査票回収率が 100%となった理由は、市職員が個別に調査票配布先に回収に伺ったためです。

委員 この審議会の委員も年齢層も様々である中で、わかり易い資料を提供いただけるとありがたいです。高いレベルで施策内容を検討するより、だれもが理解できる内容で検討することも重要かと思います。

委員 男女共同参画というと、よくわからないところもあり、どこもなく、馴染みにくい感じも否めません。私の仕事は、赤ちゃん訪問や母親の育児支援などが中心であり、こうした分野では、いわゆるイクメンと呼ばれる男性の積極的な関わりも見られ、頼もしく感じているところです。

副会長 南砺市らしい男女共同参画のあり方について、どのような計画とするか、一般的には、若い年代の人達は自然と身に着け、むしろ 50 歳以上のシニア層以上で理解が進みにくいような感じも受けます。

これから、委員のみなさんのいろいろなご意見をお聞きし、南砺市らしい計画にできればと思いますので、よろしく願いいたします。

委員 私が参加している子育てグループの人達は、当たり前のように育児に男性が関わっています。市民アンケートではそうでもないようですが、統計的な数値だけで判断することなく、身近な実体験についても参考としつつ、計画策定の参考とすべきかと考えています。

委員 職場の男女共同参画は、例えば、管理職への女性登用など、難しそうなのも見受けられるように思われます。

何のための男児共同参画なのか、例えば、若い男性が女性の尻に敷かれるような夫婦関係は、我々の年代では理解しがたいところもありますが、やはり、南砺市の風土、精神文化を踏まえて、どのレベルを目指すかを考える必要があるのではないのでしょうか。

委員 今の若い夫婦のみなさんをみていると、私の年代ではうらやましいと思うところも少なくありません。

副会長 私たちの年代では、高齢者の立場を身近に考えやすい一方で、若い世代の考え

方をイメージすることが難しいかもしれません。この審議会で幅広い年齢の方々の意見が出され計画にとりまとまることを期待したいと思います。

委員 家事を男性が行うには、相応のスキルが必要となります。意識はあってもいざとなつてできないこともあるかも知れません。やはり、一定期間の訓練、体験が重要となるように思われます。

男としての生き方や家庭での時間の過ごし方など、女性が社会進出を選択しようとする際に不可欠な要素があるようです。こうした点を捉えて、南砺市モデルを構築することも有効な視点ではないでしょうか。

市民意識調査でも設問によっては年代によって傾向に差がみられるところもあるようです。こうした傾向も施策検討の参考となるよう、資料として示していただけると助かります。

委員 市民意識調査の回答者が10年前と変わらないとすれば、単純に10年前の回答世代を10歳上回る年齢層の回答となることも考えられます。また、10代の回答率が低いこともあり、年代別の回答傾向の差異を検討する際には、年代別の回答率を踏まえることが求められるように思います。

事務局 回答者の半数は60歳以上であり、10年前に比べて比率は増えています。アンケートの結果はそれとしつつ、委員のみなさんの実感も大切にしながら、計画策定に関わっていただければ幸いです。

委員 我々の年代では、何らかの団体等に属さない人は、地域づくりに無関心であるように感じられ、こうした人たちが多くなならないことも重要かと考えています。いずれにても、本プランをどのように市民に浸透させられるかが重要であると考えます。

事務局 本プランは、今後10年間の計画であり、例えば、10年前のプラン策定時には現在のような人口減少、高齢化の進行は想定されていなかったように、こうした本市の特性を南砺らしさと捉え、計画に反映することも必要と考えています。

移住増加だけでなく、出生率を高めること、その為には職場や家庭において女性が活躍できる環境、ワークライフバランスが重要となります。特に、子育て世代の活力増進に向け、自立したコミュニティの維持においては、自治会とは別に、例えば、公民館ベースで女性が活躍できる場があるなど、南砺市においても、様々な場面で女性が活躍できることがポイントになると考えています。

人口対策を本プランの検討の視点に加えていただけるとありがたいと存じます。特に、福光あおい病院の例の通り、女性が安心して活躍できる職場づくりは、大変参考になると思っています。

委員 10年間を見越した計画とはいえ、時の流れが速い現代社会において、10年後を

想定して計画を策定することは難しく、せいぜい、5年先を見据えることぐらいかと思います。

事務局 計画の見直しは数年単位で行うことを前提としつつ、本プランでは10年間の基本的な施策体系を検討していただきたい。

委員 3万人程度の人口規模の南砺市において、男女共同参画に対する市民の認識をいかに高めるか、福光あおい病院の例をみても、これまで女性の看護師中心の職場であった病院でも最近では男性看護師が増加しつつあり、病院を訪れる市民としても、男性看護師が増えることに対して、あまり違和感を持たなくなっている。身近な職場環境の変化等も今後の市民意識を喚起する上で重要な要因となるのではないのでしょうか。

委員 看護師だけでなく、保育士も同様の傾向が見受けられます。このように、職場によっては徐々に男女の垣根がなくなっている感じは実感としてあるところです。

事務局 何のために本プランを策定するか、何度も申し上げて恐縮ですが、計画策定の重要な視点の一つとして人口対策があることは間違いないと考えています。必ずしも1次プランを前提とすることなく、これから進行する人口減少に対応するために、女性が活躍できる社会のあり方について、検討していただきたいと思います。これまでとこれからのコミュニティのあり方は、全く異質なものと考えるべきで、そこから南砺市としての男女共同参画のあり方が導き出されることを期待しています。

副会長 本日は、悪天候の中、平日のお忙しいところをご出席いただき、貴重なご意見をありがとうございました。

次回は、会長も出席いただけたと思いますので、委員のみなさんのそれぞれの立場でのご意見をいただけますよう、よろしく願いいたします。

計画策定に対するみなさんの更なるご協力をお願いいたします。

ありがとうございました。

以上